

さらなる安全性向上に向けて

弊社は、平成17年4月25日に発生させた福知山線列車事故の重大性を受け止め、「福知山線列車事故のような事故を二度と発生させない」という決意のもと、「安全性向上の取り組み」を経営の最重要課題とし、さまざまな取り組みを進めています。この取り組みに終わりはなく、「安全最優先の企業風土づくり」を確実なものとするため、日々の社員の努力に根ざした取り組みやリスクアセスメントなどを「継続」していくとともに、さらなる技術開発や新たな手法の導入など、ハード・ソフト両面を「進化」させていきたいと考えています。

私たちは、平成25年4月に5ヵ年計画として「安全考動計画2017」を策定し、JR西日本グループ全体で取り組んでいるところです。この計画では、「お客様が死傷する列車事故ゼロ」「死亡に至る鉄道労災ゼロ」を5年間を通じた目標に、「ホームにおける鉄道人身障害事故3割減」「踏切障害事故4割減」「部内原因による輸送障害5割減」を5年後の到達目標とし、安全に関する計画では初めて、達成するべき状態を数値目標として掲げました。

「安全考動計画2017」3年目の昨年度は、「ホームにおける鉄道人身障害事故」「踏切障害事故」「部内原因による輸送障害」のいずれも着実に発生件数が減少しており、社員一人ひとりの努力の積み重ねや再発防止の取り組み、リスクアセスメントの成果が現れつつあると感じています。

その一方、日々の運行においては、走行中の新幹線車両から部品が落下し、乗車中のお客様にお怪我を負わせてしまう鉄道人身障害事故や、工事中の足場の倒壊による輸送障害などの重大な事象も発生させています。これらの事象の要因となるリスクをなぜ抑え込めなかったのか、徹底的にこだわり、リスクアセスメントに引き続き取り組んでいきます。また、重大事故の未然防止にはより多くの安全に関する情報を把握し、安全対策に生かすことが重要であるとの認識のもと、「全員参加型の安全管理」の実現に向けた手段の一つとして、今年度より「ヒューマンエラー」に対する処分、マイナス評価の見直しを行い、社員が報告しやすい環境整備の取り組みを一層推進していきます。

また、激甚化する自然災害を原因とした列車脱線事故や輸送障害も発生しており、その対応が急務となっています。安全を確保することを前提としながら、運行計画やお客様へのご案内などについての課題を検証し、その改善に取り組むとともに、斜面防災対策や防風柵の設置などの着実な推進を図り、お客様へのご迷惑を最小化すべく対応していきます。

さらに、昨年度より第三者機関から安全管理体制に対する評価を受ける仕組みを導入し、今年6月に評価報告書が提出されました。今回ご指摘をいただいた事柄については、速やかに改善すべきことと、次の安全の計画に反映させるものを分けたうえで、弊社に適した形で改善を図っていきます。

今年度は「安全考動計画2017」4年目です。目標達成に向けて私自身が先頭に立ち、全員参加でさらなる安全性の向上に努めていく所存です。

本報告書は、弊社のさまざまな安全の取り組みについて、お客様や地域の皆様にご理解いただけるよう工夫して作成いたしました。ぜひご高覧いただくとともに、ご意見やご助言を賜れば幸いです。



代表取締役社長

来島達夫